

第二課

軍機極秘親展

一	一	一	一
三	二	二	一
一	三	二	二
〇	五	五	七
點	受	著	發

昭和一七五三

置 報

次 長 宛

岡 部 隊 參 謀 長

南參一電第七三四號

日泰兩軍對支協同作戰實施大綱（案）左ノ如シ、至急御意見承リ度

日泰兩軍對支協同作戰實施大綱（案）五月二日 南方軍參謀部

一 南方軍ハ泰國軍ヲシテ「サルウイン」河左岸「シヤン」地方（「カ

レン」地區ヲ除ク）ノ防衛ヲ擔任セシム泰國軍ハ右地域ヲ根據ト

シテ對支作戰ヲ實施スルコトヲ得

二 前項ノ防衛トハ支那軍ニ對スル警備竝ニ防衛地區ノ治安維持ヲ謂

ヒ形式ノ如何ヲ問ハズ行政ヲ管掌セザルモノトス

三 泰國軍ハ右作戰ニ關聯スル航空通信輸送補給給養衛生等ニ關シ
本軍ノ援助ヲ受ケザルモトス

0742

174

第一項ノ作戰ニ任ズル泰國軍ハ其ノ作戰ニ關シ實質的ニ南方軍
總司令官ノ指揮ヲ受ケシム

此方爲日本將校ハ通信機關ヲ附スル一名ヲ右泰國軍司令部ニ派
遣ス

但シ右通信機關ノ爲日泰聯合統帥機關ヲ設置スルハ泰國軍幕僚ヲ南方
軍關係司令部ニ勤務セシムルコトナシ

泰國ハ第一項ノ作戰ヲ開始セバ速カニ對支宣戰布告ス

第一項地域ノ將來ノ歸屬問題ハ本作戰トハ全然分離シテ取扱ヒ

中央ノ決定スル所ニ依ル但シ南方軍ハ右地域ヲ泰側ニ歸屬セシ
メタル場合ハ所謂失地ヲ回復セシメザルヲ可トスル意見ナリ

六 泰國ハ適當ノ時機ニ南方軍總司令官ヲ通ジ客年十二月南泰ニ於

テ泰西ニ依リ戰及セシメラレタル日本軍將兵ノ爲讀ミテ語ラズ
入ルルモノトス

通覽先 次長ハ註、陸軍武官ハ參考送

(終)

0744

176

「E F O」軍ノ「O E F」侵入企圖ヲ破碎ス

最前線ノ警備ハ努メテ「O E F」土民軍等ヲ利用ス

(四) 項乃至(五)項省略

(六) 「O E F」土民軍ハ獨立シテ邊境ノ防衛ニ任ゼシムル如ク逐次教育ス

(七) 項(八)項省略

「S O E」ハ左記ニ任ズベシ

(イ) 依然「S A G」ノ作戰ニ協カスルト共ニ適時「K N B」「E F O」「E G N」ノ擡頭ヲ破碎ス但シ努メテ雨期地帯ヲ避ケ戦力ヲ増進ス

(ロ) 「L A N」附近ノ要地ヲ防空ス

(終)

第二課

電報

次長宛

南參二電第八三號

一	一
三	二
一〇〇	二〇
〇七六	〇四
二〇〇	〇六
〇五	〇六
〇點	受著發

昭和一七五一一三

岡部隊參謀長

五月十二日正午迄ニ知得セル狀況

一林部隊

(1) 坂口支隊

怒江左岸ニ進出シアリシ一部ハ八日敵ヲ撃退シ九日夜左岸ニ

集結シアリ

又騰越追撃隊ハ八日十一時龍頭街(龍慶北一二軒)附近ノ敵

ヲ撃破追撃中ナリ

(3) 牟田口兵團ハ主力ヲ以テ「ケンタン」(「ロイレム」東々北

二三〇軒)ニ向ヒ攻撃中ニシテ九日「タカウ」(「ロイレム」

東々北一三〇軒)ニ前進セシ管

又一部ヲ以テ「サルウイン」河左岸ノ敵ヲ掃蕩中ニシテ別

ニ歩兵一大隊山砲一中隊基幹ヲ「ラシオ」ニ殘置シ附近ヲ掃

蕩中ナリ

(8) 竹内兵團

制橋部隊ハ一部ヲ以テ「ジゴン」(「マングレー」北々西一

二〇軒)主力ヲ以テ「キヌ」(「マングレー」北々西一〇〇

軒)「カブウエート」(「キヌ」東三〇軒「イラワヂ」河畔)

間ヲ掃蕩中ナリ

(4) 櫻井兵團荒木支隊ハ八日十八時頃「カレワ」東南東四〇軒

「タムバウク」(「チンドウイン」河左岸) 附近ヲ掃蕩中ナリ

ニ治部隊官地支隊ノ一部ハ十一日十一時四十分「スンバワ」島ニ

上陸中、敵影ヲ認メズ

(飛行機ノ偵察)

ニ 渡部隊

(1) 河村支隊長ハ十日二十一時三十分「ピサヤミンダナオ」軍司

令官「シヤープ」少將ト會見同方面部隊ノ無條件降伏ヲ約セ

シメタリ

(2) 三浦支隊正面ニテ敵兵六〇〇ヲ武装解除セリ

四 菅原部隊

一部ヲ以テ治部隊「ロンボンク」島及「スンバワ」島上陸作戰

ニ協力中

(終)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11

第三課

電報

總長宛

南參一電第九四三號

岡部隊長

昭一七五
五九
二二一
二〇八
一四五
發着受点

昨十八日ヲ以テ第三期作戰ヲ終了シ茲ニ南方軍作戦任務ヲ完遂セリ

南方軍ハ海軍ト協同シ速カニ防衛作戰(防空沿岸設
城防備治安警備ヲ謂ヒ軍練成及軍政ヲ含ム)ノ完
成ヲ期シ且諸工作ニ邁進シ以テ情勢ノ變化ニ剋應スル

態勢ヲ強化セントス

三 南方軍總司令部ハ七月昭南ニ進出シ各軍司令官

ヲ會同シテ南方方面參加諸部隊ノ慰靈祭ヲ舉行

シ且前項防衛作戰計畫ヲ明示スル豫定

通電先 總長 渡林 治 富 菅原 小畑 田中

各兵團長 南方軍鐵道隊司令官(總長以外

ハ參考送)

(終)

(9) 騰越部隊ハ五日未明橄欖葉ニ集結東進セシ管ナルモ状況不明
「航空状況（緬甸方面）」

(1) 六月一日以來ノ敵機來襲状況

一日 大型 蘭貢埠頭別ニ「ブレンハイム」五機「マーグイ」

三日 米爆撃機（「ノースアメリカン」）六機「ラシオ」二機

機墜）

四日 大型 六機蘭貢及「マーグイ」（二機墜）

五日 大型一機「アキヤブ」

六日 大型一機「アキヤブ」（一機墜）

七日 大型二機「アキヤブ」飛來後一機同地爆撃

(2) 小畑兵團ハ七日悪天候ヲ冒シ怒江方面ノ戦闘ニ協力シ自動車一
六ヲ銃撃破セリ
（終）

度
ムト共ニ人種戰的意識ニ導カザル如ク指導上遺憾ナキヲ期セラレ

通電先 治（次長、次官参考）

（終）

0755

187

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
					セ	シ			
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11

4

電 報
次 長
次 官
南 參 二 電 第 二 八 二 號

六 一 一
二 二 一 一
三 一 九 五
五 一 二 二
〇 五 五 〇
點 受 著 發
岡 部 隊 參 謀 長

昭和二十六年

緬甸中央軍政機構ヲ概ネ左ノ方針ニ依リ設定スルコトニ定メラル
一 軍司令官ノ指揮命令ヲ受ケ所定ノ行政事務ヲ執行セシムル爲舊緬
甸政府ノ形態ニ所要ノ改變ヲ加ヘ中央行政府ヲ樹立ス其ノ時期ハ
概ネ八月初頭ト豫定ス
二 中央行政府ノ行政施行區域ハ林部隊作戰地域ニ於ケル舊緬甸統治
法ノ區域トシ「シヤン」聯合州等ハ軍司令官直轄ス

三 中央行政府ニ中央行政長官及各部長官ヲ置ク（中央行政長官及部長ニハ「バーモ」其ノ他現地人ヲ充用スル豫定）

四 司法ハ軍司令官直轄ス

五 從來ノ議會ハ軍政間之ヲ設ケズ

六 從來ノ國財部ハ之ヲ廢止シ用兵作戰及國防事項（緬甸防衛軍關係事項共）外交關係事項竝ニ直轄區域ノ行政事務ハ軍司令官之ヲ直轄シ其ノ他ハ各關係部局ニ配分ス

七 南機關トノ關係調整ハ順調ニ進捗シツツアリ

右細部事項竝ニ緬甸軍政要員ノ充實ニ關シ林部隊ノ那須參謀副長ヲシテ上京説明セシムルニ付御聽取ノ上便宜供與相煩ハシ度

（終）

三司

第三航空軍司令部ハ昭南第三飛行師團司令部内ニ於テ本十八日編成ニ著手シ七月二十三日完結ノ豫定ニ付通報ス

(終)

電報
次長
航空総務部長
南參謀長三〇三二號

岡部陸參謀長
七
一八
一一
一六
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

昭和二十七年七月

0758

199

秘

電 報
次 長 宛

南參一電第四〇三號

南方航空輸送部ノ隸屬轉移ニ關シ命令サレ度

	九	
	一	
	九	
	八	
岡	〇	〇
	〇	〇
	〇	〇
部	三	〇
	〇	〇
	〇	〇
隊	三	〇
	〇	〇
	〇	〇
參	〇	〇
	〇	〇
謀	〇	〇
	〇	〇
長	〇	〇

昭和十七年六月

(終)

ルトニ依リ之ニ應諾セルニ付諒承アリ度

(終)

192

0761



作戰班

精誠親展

電報
次 受 死

岡 部 隊 參 謀 長

南 參 一 電 報 七 六 一 號

獨立守備歩兵第三十八大隊 同三十九大隊 八十五日十九時 西貢出帆

比 島 三 回

(終)

一	一	一	一
三	三	三	三
一	一	一	一
六	六	六	六
一	一	一	一
四	四	四	四
一	一	一	一
六	六	六	六
一	一	一	一
三	三	三	三
一	一	一	一
五	五	五	五

昭和一五年一月一六

第一級
極秘

作戰班

電報

一七一〇發
一七四〇發
一八三〇發
二二二〇發

岡部隊參謀長

昭和一六一一一六

通電先 次長 林 司

南參一電第七四九號

南參一電第七四八號續キ

ニ東部印度以外ノ兵力配置ニ關シテハ確度ヲ得ザルモ左ノ如ク判斷

シアリ

(1) 南部印度 二箇師團

(2) 「セイロン」島 三箇師團内東阿土人一箇師團

(3) 「ボンベイ」附近 一―二箇師團裝甲一箇師團

(4) 「カラチ」附近 一―二箇師團裝甲一箇師團

(5) 「ベンジャウル」「グエッタ」間 四箇師團裝甲一箇師團

(6) 「デリー」「ラハール」間 五箇師團裝甲五箇師團落下傘一箇師團（師團ニ改編セラレタル否ヤ不明）

以上ハ一九四二年一月十五日ニ於ケル兵力配置（鹵獲圖書）及外交官交換船ヨリノ情報ヲ基礎トセルモノニシテ確度乙

(7) 印度第一九師團ハ本年初メ「セカンデラバード」ニ居リタルコト確實ナルモ爾後新報ヲ得ズ

三 空軍ノ配置（番號ハ特記セルモノ以外全部中隊トス）

(1) 英空軍

第二〇（偵） 第五（戦） 「デスブール」

第一一八（爆） 第三（戦） 「カルカッタ」

第三四（爆） 第六〇 第一一三（何レモ爆） 「アサンソル」

「オンドル」 附近

第二二一 第二二四大隊（爆或ハ中隊カ） 「ランチ」

第六二 第三五三（何レモ爆） 「カタツク」

第二九七（戦） 「ナグブール」

第二一二（戦） 「デリー」

第一（不明）

第三九 第三一（何レモ爆） 「ラホール」 「ベシヤワル」 附近

第二（加奈陀空軍）

第二四一 第二四九(不明) 「マドラス」 「セイロン」 島間

(2) 米空軍

第二六(戦)ノ一部ハ第一空輸聯隊「チンスキヤ」

第二六主力 第五一聯隊(戦) 第一三空輸中隊「カルカッタ」

第九 第四三六(爆) 「ガヤ」

第七聯隊 第八八(何レモ爆) 第三四一(不明) 「アラハバード」

第四九一(爆) 「カラチ」ニ編成中

四 印度第一 第三一 第三二師團及落下傘師團ニ關スル情報アラバ

承り度

(終)

197

0766

キニ存スルニアラズヤト思料セラル
然ルニ同島ハ海上連絡地點トシテ敵ノ使用アルヤノ疑アリ
又「パレンバン」方面ノ防衛上ノ見地ヨリスルモ之ガ占領ヲ必要
ト認メラルルニ付海軍中央部ヨリ現地海軍指導方然ルベク配慮ア
リ度

(終)

丁五へ

千島 〆ミハル備島

A.T.F. 就中 D.E.R. 方面ニ於ケル跳梁状況ニ鑑ミ此方

面ノ防衛上特ニ D.E.R. 方面ノ輸送掩護上極メテ有利ナ

ルノミナラズ 實施時機ヲ適切ナラシムルコトニ依リ剛集團

方面ノ作戰ヲ有利ナラシメ得ル結果ヲモ豫想セラルルヲ以

テ航空部隊ノ一部ノ兵力ヲ使用シ右攻撃ニ協力致

シ度考ヘナリ 貴意承リ度

(終)

緊急秘親展

航空班

電報

次長宛

南參電第一〇九號

因部隊總參謀長

昭一八一一三

一、二、一六〇〇發
一七〇〇著
一七〇〇受
一九〇〇貞

第七飛行師團ノ編成ニ關シ當方ノ意見次ノ如シ

第三飛行團

〔司令部、飛行第五十九戰隊（戦闘）、飛行第七十五戰

隊（輕爆）、獨立飛行第七十中隊（司偵）〕

第九飛行團

司令部、飛行第六十四戰隊（戦闘）、飛行第七、第

六十一戰隊（重爆）

第四第九航空地區司令部

第二十四、第四十一飛行場大隊（戦闘）

第三十五飛行場大隊（輕爆）

第二十、第二十八、第三十八飛行場大隊（重爆）

第七飛行場中隊（重爆）

✓ 第二十九飛行場中隊（司偵）

第十四航空情報隊

第四航測隊

第四、第九野戰飛行場設定隊

獨立自動車第二〇九八中隊

陸上勤務第六十九中隊

陸上勤務第二百二十三中隊

建築勤務第四十三中隊

第七飛行場中隊

第四野戰飛行場設定隊

陸上勤務第六十九中隊

以上
駐

何レモ十二月末ノ配置ヨリ千モル方面へ移動中
又陸上勤務第六十八中隊ハスマトラヨリ近ク西貢ニ
移動ス
(終)



205

0774

